解体工事部門を新設

資源循環をさらに推進

セキゼン

顧客の利便性向上と資源循環のさらなる推進

セキゼン（香川県高松市、岩崎一雄社長、☎087・881・1161）は今年2月より、「解体工事部門」のスタートを切った。2023年12月に解体工事事業者登録が完了し、解体工事業界に参入。昨年は、1年にわたり工事で必要となる技術的な資格を取得するなどし、準備を進めてきた。本格的に事業を開始したことで、これまでの産業廃棄物の収集運搬や中間処理、リサイクル事業に加えて、解体から処分までを一貫して手掛ける体制を構築した。これにより、廃棄物の発生段階から最終処分までをワンストップで担い、を目指している。

地域に根差した事業を展開する

同社エコ事業部は01年の創業以来、長年にわたり地域社会に根差した廃棄物処理事業を展開してきた。廃プラスチックや木くず、紙くず、金属くずなど多様な産業廃棄物を取り扱い、最新の設備と徹底した分別技術により、高い再資源化率を実現している。近年は、太陽光パネルの再資源化にも積極的に取り組み、リサイクル率100%を目指した新たな処理ルートの開拓にも注力している。

新たに事業展開を始めた解体工事では、木造・鉄骨造・RC造など各種建物の解体工事から、内装解体や設備撤去、太陽光パネル撤去に至るまで、幅広いニーズに対応。各種許認可を取得した経験豊富な技術者が、安全・安心な工事の実施と適正処理に努めている。また、現場ごとに最適なリサイクル処理を提案し、廃棄物の削減と環境負荷の低減に貢献する方針だ。地域の自治体や関係機関との連携も強め、より高い信頼性と透明性の確保にも努めている。

さらに、同社では働きやすい職場づくりにも力を注ぎ、社員教育や資格取得の支援をはじめとした人材育成を推進。コンプライアンスの徹底や安全衛生管理の強化に取り組むことで、従業員一人一人が安心して働ける環境づくりを重視している。地域社会への貢献も同社の重要な使命と位置付け、日々の事業活動を通じて、社会的責任を果たす姿勢を大切にしている。

また、現在、工場の増設を進めている。今年11月には完成し、新たな拠点として、より充実したサービスの提供を目指す。地域社会とともに歩み続けるセキゼンの新たな挑戦に、業界の注目が集まっている。